

## ●当初の課題・事業目的

地域内は3小学校区（平木・深津・安井）に分かれており、近隣でありながら情報やコミュニケーションが分散する傾向にある中、大規模マンションの建設が進み、新たな住民が増加している。地域内の非常時の災害拠点である市立体育館分館グラウンド・若竹生活文化会館でこの事業を実施することにより、公共施設に設置された非常時用設備を広く知ってもらい、同じ地域に住むもの同士として交流する機会を提供し、各家庭で「災害への備え」について考え、話し合う機会を提供することを目的とした。



会長 山下 秀春

## ●事業概要

実施日：2019年7月20日（土）午前10時～12時 実施回数：1回

実施場所：若竹生活文化会館・中央体育館分館グラウンド

★謎解きゲームと防災をテーマにした各ブース（全6か所）を巡るスタンプラリーを並行して実施

講師名：「障がい者の避難体験」

＝社会福祉協議会 地域福祉課 本田沙織さん・芦原ボランティアセンター 山藤さんほか4名

「ケガの応急処置」＝応急手当普及員・赤十字幼児安全法支援員 立山摩季さん

「防災パーゴラ・阪神淡路大震災の写真展示」＝西宮市消防団安井・芦原分団のみなさん

「防災用品の展示」＝地域防災支援課用品提供・兵庫県防災士 岸本正さん監修

参加者数：71 スタッフ数：47 合計 118人



## ●事業の成果・工夫した点

体験を多く含むことで、学びの中に楽しさがあるよう工夫した。事情により当日は兵庫県防災士に参加してもらうことが困難となったため、事前に協力を請い、展示品の監修をしていただいた。また参加申込に利便性を持たせるため、主にメール（コード）を使用した。

一定数の参加者を得ることができ、アンケート結果により目的に対する高評価を得られた。

## ●苦勞した点・今後の課題

謎解きゲームを主軸に参加者を募り、並行してスタンプラリーを実施する形式をとったので、時間内に全ブースを回れるようスムーズな移動を考慮した会場配置が必要だった。また、天候が安定しないので当初設営予定だったパーゴラテントを設営せず、設置場所でのベンチ内の見学、写真を使用した説明となった。

地域の自主防災会との協働が得られなかったことが今後の課題である。

## ●代表者の感想

参加者からは「たくさんの有用な情報が参考になった」、「いろいろ体験でき、とても勉強になった」という意見が多く寄せられ、一定の成果が得られたと考えている。今後も「災害が起きた時、何ができるか」を地域全体として考えていくよう、今後も取り組んでいきたい。